一誌一句（受贈誌７・８月号他より）

米田　透　抄出

晩年は憂きこと多し花あしび　（ひこばえ）　月森　遊子

縄電車しづかに過ぎて敗戦忌　（青　山）　しなだしん

裏の方へお廻り下さいゼラニウム　（歯　車）　前田　弘

早乙女の明るき顔の泥乾く　（　和　）　名和　永山

ばら色から薄鼠に昏れ飛騨深秋　（八千草）　山元志津香

剪定の現場に届く生蕎麦かな　（宇　宙）　島村　正

読み返す憲法九条黄砂降る　（　衣　）　犬山　京子

すててこや要介護なき寡夫である　（雪　華）　橋本　喜夫

蔓草のしのびこむ夢明易し　（鹿火屋）　原　朝子

うららかや地を踏みたがる抱かれし児　（夏　爐）　古田　紀一